水島銕也　略年譜

1864（元治　元）6 月 29 日豊前中津藩士水島均の長男として生まれる。
1880（明治 13）9 月姫路中学校本科を卒業する。（17 才）
1881（明治 14）3 月神戸商業講習所に入学する。（18 才）
1884（明治 17）3 月神戸商業講習所を卒業する。
6 月中津開運社の給費生に選ばれて、9 月東京外国語学校附属高等商業学校に入学する。（21 才）
1887（明治 20）　3 月東京商業学校（高等商業学校）を卒業する。同期に江口定条（如水会初代理事長)、東奭（せき）五郎。（24 才）
4 月同校教員を嘱託される。
1888（明治 21）4 月府立大阪商業学校校長心得となる。同校の学制を改正する。（25 才）
1889（明治 22）9 月大阪商業学校を辞任する。10 月藤田組に入社する。（26 才）
1891（明治 24）5 月藤田組を辞する。
6 月横浜正金銀行に入り、横浜本店に勤務する。（28 才）
1893（明治 26）6 月横浜正金銀行ニューヨーク出張所詰となる。（30 才）
1895（明治 28）11 月病のため帰朝し、本店詰の名目で静養する。（32 才）
1896（明治 29）9 月下野直太郎の説得により横浜正金銀行を辞し、高等商業学校教授となる。（33 才）
1903（明治 36）1 月神戸高等商業学校校長となる。（40 才）3 月原口亮平と共著の「応用銀行簿記例題」を出版する。中学卒、商業学校卒（従来は進学の途がなかった）の 2 部制をとる。比率は 2：1。
1925（大正 14）5 月神戸高等商業学校の辞表を当局に提出する。教授会、凌霜会、学生挙って留任を懇願する。
7 月辞任。旭日重光賞を受ける。8 月神戸高等商業学校名誉教授となる。
1926（昭和元）6 月如水会有志より熊内の邸宅に「淡如閣」を贈呈される。
12 月凌霜会主催の謝恩式において謝恩金が贈呈される。
1928（昭和 3）4 月別府に赴いて静養、8 月帰神する。
10 月 14 日突如昏睡状態に陥る。その後一時小康を得たが、11 月 2 日遂に長逝する。享年 65 歳。
1929（昭和 4）12 月如水・凌霜会有志により愛庵会が組織される。愛庵会は、大分県中津に誕生地記念碑を建て（1932)、伝記『水島銕也先生伝』を出版する（1940)。

出典：主として、平井泰太郎『水島銕也』（1959 年、日本経済新聞社）による。

植村達男 2010

福田徳三と水島銕也等

福田徳三（1874－1930）30 年祭にあたり刊行された『福田徳三先生の追憶』（1960 年、中央公論事業出版）という書籍がある。この本の 40 名の寄稿者の中に 6 名の神戸高商出身者がいる。
高垣寅次郎（尾道商業卒）、福田敬太郎（茨木中学卒）、赤松要（久留米商業卒）、宮田喜代蔵（金川中学卒），中山伊知郎（宇治山田中学卒）、宮下孝吉（浜松商業卒卒）
（大塚金之助（神戸一中卒））→健康上の理由で寄稿出来ず。

当時の神戸高商には、坂西由蔵（福田徳三と極めて親しい）、津村秀松、瀧谷善一、東奭（せき）五郎、内池簾吉、田崎慎治等高等商業出身の教授が多数いた。神戸高商から東京高商専攻部または東京商大に進学した卒業生としては、以上のほか豊田利三郎、石井光次郎、加藤由作、白杉三郎、飯島幡司、丸谷喜市、花戸龍蔵、坂本弥三郎、天羽英二、平井泰太郎、新庄博、野村寅三郎、五百旗頭（いおきべ）慎次郎、古川栄一、小原敬士、藤井義夫、鬼頭仁三郎、江田三郎、森田優三、北村五良、松野賢吾等（順不同）がいる。

なお、神戸高商校長は、東京高商出身の田崎慎治に引き継がれ、田崎は神戸商業大学（1929 年昇格）初代学長となる。その後、神戸商業大学の学長は丸谷喜市、花戸龍蔵が就任（戦時中、神戸経済大学と名称変更）する。1949 年、新制神戸大学初代学長は田中保太郎（神戸高商→シカゴ大）、次いで古林喜楽（神戸高商→京都帝大）、福田敬太郎が次ぐ。神戸大学は前身校以来、水島、田崎、丸谷、花戸、福田（1960－1964）と約 50 年前までは、校長または学長のほとんどが一橋系の出身者であった。

その他
渋沢栄一翁と神戸高商、鈴木商店（城山三郎「鼠」の世界）、兼松（兼松記念館と兼松講堂）、出光興産（生涯の師、水島銕也と内池簾吉）。

植村達男 2010